

広陵町の文化芸術資源

1 文化施設

名称	施設の概要	使用料	所在地
総合保健福祉会館(さわやかホール)	6,478 m ² 、2001 年 貸室 1(デイサービス:25) 大広間(和室)(60)、大会議室(250)、中会議室(50)、小会議室(10)、共用娯楽室(15)、視聴覚室(カラオケ室)(10) レストラン	有料	大字笠
図書館	2,905 m ² 、1997 年 視聴覚室(50) 会議室(30) 蔵書冊数(一般 223,982 冊、児童書 73,724 冊、合計 297,706 冊) 有資格司書数(正職員:3 人、会計年度任用職員 10 人) 貸出数(417,910)		大字三吉
はしお元気村	1,888 m ² 、1997 年 会議室 1(14)、会議室 2(43)、音楽室(10)、ホール(250)、健康増進室	有料	大字弁財天
グリーンパレス	2,792 m ² 、1990 年 大ホール(250)、貸室 2(75)、貸室 3(25)、調理室(32)、講座室(40)、軽運動室、宿泊室(7 室) レストラン	有料	大字笠
中央公民館(かぐや姫ホール)	2,066 m ² 、1973 年 かぐや姫ホール(408) 多目的室(50) 工作室(24) 大会議室(60) 小会議室(20) 研修室(24) 和室・大(50) 和室・小(30) 料理実習室(36)	有料(減免有り)	大字笠
六道山公民館	259 m ² 、1974 年		大字大塚
大塚公民館	326 m ² 、1973 年		大字大塚
安部公民館	531 m ² 、2002 年		大字安部
平尾公民館	282 m ² 、1973 年		大字平尾
疋相公民館	329 m ² 、1981 年		大字疋相
大垣内公民館	299 m ² 、1983 年		大字三吉
赤部公民館	299 m ² 、1983 年		大字三吉
斉音寺公民館	300 m ² 、1983 年		大字三吉
笠公民館	300 m ² 、1976 年		大字笠
南郷公民館	272 m ² 、1978 年		大字南郷
古寺公民館	675 m ² 、2005 年		大字三吉
百済神主公民館	137 m ² 、1982 年		大字百済
百済(今市)公民館	81 m ² 、1990 年		大字百済
百済(淵口)	195 m ² 、1993 年		大字百済

森公民館	170 m ² 、2008 年		大字百済
沢公民館	287 m ² 、1984 年		大字沢
大野公民館	290 m ² 、1982 年		大字大野
萱野公民館	410 m ² 、1983 年		大字萱野
南公民館	399 m ² 、2002 年		大字南
弁財天公民館	286 m ² 、1982 年		大字弁財天
的場公民	264 m ² 、1982 年		大字的場
大場公民館	103 m ² 、1982 年		大字大場
中公民館	178 m ² 、1986 年		大字中
寺戸公民館	175 m ² 、1984 年		大字寺戸
みささぎ台公民館	351 m ² 、1988 年		大字みささぎ台

注 面積は延べ床面積、年表記は建設年、会議室等の()内は収容人数。

2 文化財

(1) 国指定文化財

種別	名称等	数量	所在地	指定年
重要文化財 (建造物)	百濟寺三重塔 (鎌倉時代後期)	一基	大字百濟 百濟寺	明治 39 年
重要文化財 (彫刻)	木造十一面観音立像 附 木造十一面観音立像 (鞆仏) 附 鞆仏内納入品 (奈良時代)	一軀 一軀 一括	大字広瀬 与楽寺	平成 17 年
特別史跡	巢山古墳 (古墳時代中期)	一基	大字三吉	昭和 27 年 平成元年
史跡	乙女山古墳 (古墳時代中期)	一基	大字寺戸 河合町大字佐味田	昭和 31 年
史跡	牧野古墳 (古墳時代後期)	一基	馬見北 8 丁目	昭和 32 年

(2) 県指定文化財

種別	名称等	数量	所在地	指定年
有形文化財 (建造物)	百濟寺本堂 (江戸時代)	一棟	大字百濟 百濟寺	平成 10 年
有形文化財 (彫刻)	木造毘沙門天像 附 像内納入印仏 (平安時代)	一軀 一括	大字南 長泉寺	平成 10 年
有形文化財 (工芸品)	黒漆塗春日厨子 (室町時代)	一基	大字広瀬 与楽寺	平成 10 年
史跡	安部山古墳群 (古墳時代後期)	四基	馬見南 2 丁目	平成 8 年
天然記念物	八坂神社 ケヤキの巨樹	一木	大字古寺 八坂神社	平成 8 年
民俗文化財	大垣内の立山祭		大字三吉	平成 8 年
民俗文化財	天神社の綱打ち		大字広瀬 天神社	平成 10 年

注 広陵町ホームページより。

(3) その他（前頁のものは除く。）

名称	概略	所在地
讃岐神社	かぐや姫の伝承がある。	大字三吉
小北稲荷神社	7世紀頃舒明天皇時代の創建と伝えられる。	大字中
八坂神社	町指定天然記念物のケヤキの巨樹がある。	大字古寺
櫛玉比女命神社	戸閉祭	大字弁財天
稲荷神社	ムクノキの巨樹	大字南郷
天神社	綱打ち(町指定文化財)	大字広瀬
八皇子神社	名替え	大字広瀬
専光寺	立山祭(町指定文化財)	大字三吉
祐福寺	誕生釈迦仏立像	大字三吉
長泉寺	毘沙門天立像(町指定文化財)	大字南
念願寺	誕生釈迦仏立像	大字沢
石造伝弥勒菩薩座像	県内最古の在名石仏(県指定文化財)	大字南郷
箸尾城跡	室町時代、箸尾氏の居城	大字弁財天
竹取公園	復元された古墳時代の住居	大字三吉
南郷環濠集落	整備された環濠	大字南郷

巢山古墳	大型前方後円墳(特別史跡)	大字三吉
三吉2号古墳	帆立貝式古墳	大字三吉
タダヲシ古墳	前方後円墳	大字三吉
佐味田狐塚古墳	帆立貝式古墳	大字三吉
牧野古墳	大型横穴式石室(史跡)	馬見北
石ヶ谷古墳	横穴式石室	馬見北
三吉一番地古墳	横穴式石室	大字三吉
新木山古墳	大型前方後円墳(陵墓参考地)	大字三吉
三吉石塚古墳	復元された帆立貝式古墳(県指定史跡)	大字三吉
安部山古墳	第1号墳(町指定史跡)	馬見南
安部山古墳	第4、5、6古墳(町指定史跡)	馬見南
新山古墳	大型前方後円墳(陵墓参考地)	馬見南
モエサシ古墳	前方後円墳	馬見南
エガミ田古墳	6基の古墳	馬見南
池上古墳	帆立貝式古墳	大字大野
文代山古墳	大型方墳	大字寺戸

文化財詳細

名称	概略	写真
百済寺三重塔 (重要文化財)	『日本書紀』舒明天皇 11 年 (639 年) 7 月の条に「詔して曰く、今年大宮及大寺を作らむ。百済川の側を似て宮処と為す。」と記載され、聖徳太子が開いた熊凝精舎 (くまごりしょうじゃ) を前身とする日本初の官寺「百済大寺」の伝承地。塔は三間四方で、初層に回縁を設け、2・3 層には高欄を付け、本瓦葺きで彩色が施されています。和様の優美な姿でそびえる三重塔は、鎌倉時代の建立と伝えられ、重要文化財指定。本堂は大織冠 (たいしょくかん) と呼ばれ、談山神社の本殿を移築したもので毘沙門天像、十一面観音立像がまつられています。	
与楽寺十一面観音立像 (重要文化財)	弘法大師座像の脇壇には、十一面観音立像があり、解体修理によって像内から発見。マユミの一木で頂上の仏面から蓮華座まで緻密に彫出。制作奈良時代。像高 31 cm。	
弘法大師座像 (奈良県指定文化財)	三間四方の四注造棧瓦葺の本堂にまつられる本尊。右手に五鈷杵 (ごこしよ)、左手に数珠をもつ座像。制作応安 6 年 (1373 年)。像高 83.6 cm。	
正楽寺十一面観音立像 (奈良県指定文化財)	古寺環濠集落の中にある正楽寺観音堂に安置される本尊。平成 7 年の解体修理の際、発見された墨書銘から僧永覚の縁者の祈願により造立されたことが判明。制作平安時代末期。像高 211.4 cm。	
大福寺十一面観音立像 (奈良県指定文化財)	左に難陀竜王 (なんだりゅうおう) 像、右に雨宝童子 (うほうどうじ) 像を侍立する長谷寺形式の三尊像で、全てが現存する数少ない遺品のひとつ。制作永禄 3 年 (1560 年)。像高 185.3 cm。	

名称	概略	写真
<p>巢山古墳</p>	<p>馬見丘陵の中央部に位置する大型前方後円墳で、墳丘全長 220m、左右のくびれ部に造り出しを設け、周囲には水を湛えた周濠と外堤が巡ります。埋葬施設は後円部中央に竪穴式石室 2 基、前方部にも石室があります。出土品は、玉類、腕飾類、鏡、冠等多種類で、周濠からは『古事記』に記された「喪船」（遺骸を載せる船）が出土。当地域の首長の墓といわれています。</p>	
<p>新木山古墳</p>	<p>前方部を東に向ける前方後円墳。墳丘全長 200 m、前方部幅約 118 m、後円部径 120m で、周濠と外堤を伴う形状で、馬見古墳群で巢山古墳と並ぶ大型古墳です。円筒埴輪から、築造は 5 世紀前半、巢山古墳に次いで造られたと考えられています。三吉陵墓参考地として、副葬品の勾玉、管玉、棗玉は宮内庁に保管されています。</p>	
<p>新山古墳</p>	<p>馬見丘陵の南東端に築かれた全長約 126 m の前方後円墳で、築造は 4 世紀後半、馬見古墳群中で最も古い古墳とされています。後方部中央の竪穴式石室から銅鏡 34 面（三角縁神獣鏡・直弧文鏡など）や玉類、鉄形石、車輪石、石釧、金銅製帯金具、台座形石製品などが出土。大塚陵墓参考地として宮内庁の管理下にあります。</p>	
<p>三吉石塚古墳</p>	<p>新木山古墳の西に築かれた東向きの帆立貝形古墳で、墳丘全長 45 m で、周囲に馬蹄形の周濠と外堤が巡ります。墳丘は二段で、第二段目には円筒埴輪、蓋、短甲、家形埴輪が立てられており、それらの形式から 5 世紀後半の築造と考えられています。遺構を盛土で保存した上に築造当初の姿に復元する工法で整備。円筒、朝顔形埴輪も磁器製の複製品を設置しています。</p>	
<p>牧野古墳</p>	<p>丘陵奥部にある直径約 50 m の大型円墳で、墳丘は三段築成で造られ、二段目には全長 17.1 m の大型横穴式石室が開口しています。墓室である玄室には奥壁に沿って横向きに家形石棺が置かれ、副葬品として金環と各種の玉類、馬具は二組分出土しています。銀装の太刀と 400 本近い鉄製のやじり、58 点の須恵器が発見されています。6 世紀末葉の古墳で押坂彦人大兄皇子（舒明天皇の父）の成相墓（ならいのはか）とされています。</p>	

名称	概略	写真
讃岐神社	<p>延喜式神名帳に記された神社と考えられ、現在は大物忌命・倉稻魂命・猿田彦命・大国魂命を祭るが、『日本三大実録』元慶7年（883年）の散吉大建神・散吉伊能城神に従五位下を授ける記事は当社に関する可能性が大きい。『神名帳考証』には讃岐国と関係が深い祭神である景行天皇の皇子五十香足彦命を祭ると記される。</p> <p>竹取物語の舞台が讃岐神社周辺であるとされている。かぐや姫に求婚する五人の貴公子の名は壬申の乱（672年）で活躍した実在の人物であり、かぐや姫の館に求婚のために通った記事から、竹取物語の舞台は大和国広瀬郡散吉郷(現広陵町大字三吉)であるとされている。讃岐の一族が大和朝廷に仕えるため、竹の豊富なこの地に移りすみ、竹取物語が生まれたと考えられる</p>	
小北稻荷神社	<p>中集落の南、高田川の東岸に鎮座する神社で倉稻魂命を祭神とする。社伝によれば舒明天皇の時代に創建され、室町期になるとこの地域を支配した箸尾氏の崇敬を受け、その保護のもとで社殿が造営され、永禄6年（1721年）には郡山藩主本田氏から神殿造営の供田の寄進を受け、その後、柳沢氏の家老柳沢里恭も深く信心し、享保21年（1736年）一石二斗の田地を寄進した記録が残されている。</p>	
八坂神社	<p>古寺集落に鎮座する神社で素戔男命（すさのうのみこと）を祭る。本殿は春日造で、間口六間の大型の拝殿が建てられる。境内にはケヤキの巨樹が生育している。主幹は、地上2.5mで二岐し、地上1.3mの幹まわりは4.3m、（直径1.4m）、樹高は約25m、枝張は計測可能な南北方向で21.7mあり、樹勢は旺盛である。この他に境内にはムクノキの巨樹が数本みられる。盆地にあって有用樹種であるため、このような巨樹が残ることは珍しい。</p>	
櫛玉比女命神社	<p>延喜式神名帳に記された神社で祭神は櫛玉比女命を祭る。神殿は前方後円墳の後円部に築かれ、周濠の痕跡が明瞭に残り、埴輪の破片が出土する。明治時代以前には弁財天とも呼ばれていた。地名ともなっている弁財天は弘安7年（1284年）に吉野郡天川村の天川弁財天を勧請した縁起を今に引く。</p> <p>晩秋の11月2日・11月3日に行われる「戸閉祭」は各村の地車が引かれ、古式豊かで勇壮な宮入が行われる。</p>	

出典：町勢要覧